四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 17

私の水への思い

高知県　十和村長
酒井（さかい）　節夫（せつお）

1、古老の話

私が少年の頃、地域の古老から聞いた水に関する話を3例紹介します。

（1）新たに井戸を掘るときは、窪地を掘っても出ない。「畝」沿いを掘れば水は必ず出る。

（2）人々が、その井戸を利用しなくなったら、水神様が水を出さなくなる。

（3）川の水は、三瀬流れたらきれいな水になる。

この話は、素人の私が考えても理に適い科学的にも裏打ちされた人々の生活の知恵が生んだ水を大切にする精神だと思います。

2、広葉樹林は、保水力があり針葉樹林は保水力がない？　それ本当？

私の所有林でこのことを検証してみたいと思います。

約40年前まで山の斜面に採草地があり、春は野焼き、夏草は家畜の飼料、秋は干草刈をしていた頃、その沢には決して涸れることのない水源がありました。今、同採草地はクヌギの広葉樹林になっていますが、同水源地には一滴の水もありません。

この現実を見たとき、人々の生活がその地に入らなくなると自然環境が保たれないので水が涸れるのではないでしょうか。そこに人々の生活の営みがある限り広葉樹、針葉樹、採草地、田畑に関係なく保水力は保たれると私は思います。

3、干ばつ時の水源池は、観光地ではない。

渇水の時期になると、その水源で受益を受けている方々が渇水の水源現場をマイカーで見に来ていると新聞等でよく報道されますが、私は水源池と同じ山間に住まいしている者としてこうした観光気分の行為は、本当に迷惑千万な思いであります。渇水現場を見に来る暇があれば、その労力、資力を水源林保全のためにこそ積極的に使っていただきたいものであります。

四万十川支流（古城）の井堰

四万十川支流の複層林（大道）

四万十川の流れ